



保護者の皆さんへ

CPSV (進路相談員) だより

October

北海道教育庁胆振教育局
第7号 令和6年10月

YELLエール



高校生の7割が、進路を考えると「不安」



2019年に全国高等学校 PTA 連合会が全国の高校2年生約2000人を対象にアンケート調査を実施しました。「高校卒業後の具体的な進路について」「将来どんな職業に就きたいか」「将来の自分の夢」「現在の成績について」「将来どんな生活をしたか」などについて考えるとき、「どちらかという不安」(39.9%)と「不安な気持ち」(29.5%)と、70%の生徒が将来について考えるときに不安な気持ちを持つことという結果が出ました。

保護者との対話は、前向きな気持ちになる鍵



一方、「楽しい」と答えたのは27%で、対話頻度別にみると、保護者に話す層は、話さない層に比べ「楽しい」の割合が高く、前向きな姿勢がみられます。将来の「夢」「生き方」のイメージがあり、自分の将来への希望を保護者と話していることが分かります。

進路選択における親子コミュニケーションの難しさ



調査によると保護者がよく使う言葉は、「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」。これはポジティブに捉える意見があると同時に、保護者の無関心さを疑う意見や自身に託されることへの重圧感を感じるといったマイナス意見も挙がっています。

「アドバイスが難しい」という回答も多く、その理由は①入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから②社会がどのように変わっていくのか予測がつかないから③家庭の経済的な理由で、子どもの進路の選択肢を狭めざるを得ないから④子どもにアドバイスできるほど、自分の生き方・考え方に自信がないから⑤子どもが何を考えているかわからないから—という点が挙げられています。また、保護者にやめてほしい行動・態度は「高望み」と「勉強や成績の話ばかりする」と、進路選択を控えた子どもたちのコミュニケーションは保護者といえど難しいようです。

寄り添い、一緒に考える一番のアドバイザーに



親子の会話では、「何がしたい」も大切ですが、「何ができるのか」を一緒に考えることが大切です。考えの押しつけることなく、話を聴き、相談役に徹することがお子さん自身の「気づき」につながることもあります。アドバイスをすることが難しくても、一緒に悩み、対話することを大切にしましょう。

学校のご要望に合わせ、子どもの就職選択を家族がどのように支え、関わるかなどを講話します。

胆振教育局(0143-24-9895) 進路相談員 竹浪恒一郎